

JA 佐久浅間採種部会 7月現地指導会を開催しました。

農業農村支援センターでは、7月、JA 佐久浅間管内で水稻採種部会の現地指導会を開催しました。水稻の採種栽培とは、来年使う優良な種子を生産するために行っています。また、一般栽培とは異なり、種子に異品種・異種穀粒が1粒でも混ざるとは認められず、ほ場審査と生物検査・農産物検査に合格したものが「種子」として流通することになります。

今回は、水稻の優良種子生産に向けた7月以降の栽培のポイントについて講習を行いました。これからの時期に重要となるのは“異系抜き”です。異系というのは本来の特性と異なる特性を持った個体であり、例としては、穂がひときわ長いものや逆に短いもの、出穂早々に穂が傾いてしまっているもの、葉が白や黄色に変異してしまっているもの等があります。今後、ほ場審査を前に雑草や病害虫防除の徹底も重要となります。



現地指導会の様子